

令和2年度第2回 足立区地域包括ケアシステム推進会議 (書面開催)

令和3年3月

意見聴取結果

1 回答者数

全委員数31名うち回答者数25名、回答率80.6%

2 報告案件意見聴取状況

【案件1-1】 足立区地域包括ケアシステム推進会議委員の任期の変更について

可（賛成25、反対0、保留0）

※意見なし

【案件1-2】 令和3年度地域包括ケアシステム推進会議委員の改選について

可（賛成25、反対0、保留0）

※意見なし

【案件2】 令和3年度専門部会の委員構成について

可（賛成25、反対0、保留0）

※意見あり

- ・ 人数を絞ることで議論が効率的に深まり易くなることを期待したい。
- ・ 専門的立場の方が多し各専門部会の開催時に必要に応じて臨時追加やオブザーバー参加を認めるなど柔軟な対応ができるといい。
- ・ 最終的な利益享受者である地域住民の意見は大切。また、認知症部会については在宅の認知症患者の生活にダイレクトにかかわっている方が不在のように思う。
- ・ 議論から結論へ導くプロセスのすべての段階において、偏りが生じないように気を付けなければいけないと思う。

【報告1】 地域ケア会議の結果等について

※意見あり 別紙のとおり

【報告2】 (仮称)江北健康づくりセンターの整備計画について

※意見あり 別紙のとおり

【参考】

<会議の有効性>

足立区地域包括ケアシステム推進会議条例第7条第2項に基づき、例外的^{*}に回答した数を出席委員数とみなした。

<議決の有効性>

足立区地域包括ケアシステム推進会議条例第7条第3項に基づき、例外的^{*}に回答数の過半数で議決とみなした。

(※例外的とは:新型コロナウイルス感染症の影響により、長期にわたり会議が開催できないことに鑑み、書面による意見聴取とした。)

【報告 1（地域ケア会議の結果等について）に対する意見】

- * 抽出された地域課題から、取組（課題）の提案がされており、今後具体化していくと思われます。ただ、示された取り組みも、抽象的なものがあり、各取組課題について、具体化の流れをみていきたい。

- * 「地域包括支援センター地域ケア会議活動報告集」を拝見しました。新型コロナウイルス感染症の拡大が続くなか、活動の方法を模索しながら、大切な事項について検討されている様子がわかりました。
 - ・ サロン活動再開の模索
 - ・ 地域のつながりの大切さ
 - ・ 引きこもりなど、困難事例への対応
 - ・ 日常生活支援（買い物など）
 - ・ 多世代交流
 - ・ 災害時対策
 - ・ 訪問系介護事業所における新型コロナウイルス感染症対策
 - ・ オンライン（デジタル）とアナログ両方の必要性
 - ・ 住民一人ひとりのマナー、多国籍の方との共生
 - ・ 支援の多様性とつながり

- * いずれも、時期を得たタイムリーなテーマを選定され、地域に根差した貴重な活動報告だと思いました。

- * 別紙3の「目的・機能」の②にもある「自立支援」という観点からみると、特に認知症の人に関する取組みでは、「本人発信支援」や「本人の社会参加支援」「認知症バリアフリー」など、今後は、本人の声と力を活かした生活支援及び地域づくりにより力をいれていくことが必要と考えました。
 - ・ すでにそれに類する活動が見られ、新たな活動をするというよりも、これまでの活動を活かして、より本人視点にたつて。

- * コロナの影響もあり、参加できませんでした。

- * ZOOMなどWEBのアプリもあると参加しやすいです。

- * 資料からも、平時における日常の活動がとても大きな価値を持っていたことに改めて気づかされます。コロナが終息あるいは収束傾向になったとしても、感染症に対する意

識が高まっている現在が、正確な知識、取り組みやすく効果的な感染症対策等を広く浸透させていける機会とも言えるかと思います。今後も似たような状況が訪れた際、少しでも多くの活動が安全に継続できるような準備が出来ると良いのかと思います。

- * 地域包括支援センターでは各地域ごとに、特徴があり、住民も様々な中、今回はコロナ禍でどう支援していくかが、共通の課題となっている様でした。困難ケースも何件もあり、放置できない、延期も出来ない状況がある中、皆さんよく取り組んでこられ、大変さがうかがわれます。成功例や失敗例なども情報共有して、横のつながりができればと願います。

コロナ感染予防においては、住民の不安は大きいものと思われます。その中で、包括支援センターは頼りになる機関であるので、正しい情報を区民に伝える担い手だと思います。それが、よく伝わってきました。

- * 新型コロナウイルスの状況下で地域の活動が引き続き行われている事に安心しております。ただ、この一見高齢者の方自らが、この仕組みにアクセスすることが難しくなっており、課題の一つと思います。

- * コロナ禍の中で工夫をされて地域包括支援センターを中心として活動されている事をありがたく思いました。最近いろいろな資料、報告書などで、カタカナ語、アルファベット略語が多くなっていると感じています。耳慣れない言葉もあり、高齢者の一人として時代について行くのは大変だと痛感しています。専門外の人、高齢の人でも分かるようなら注釈があるとうれしいです。自分の不勉強を棚に上げて本筋とは離れた感想を書かせて頂きました。

- * コロナ禍での様々な課題解決に向け、色々と工夫をしながら取り組んでほしい。

以上

【報告2（（仮称）江北健康づくりセンターの整備計画について）に対する意見】

- * 別紙6によると、江北健康づくりセンターを拠点として位置づけられています。足立区全体の拠点としての位置づけなのでしょうか。それとも江北地域についての拠点（モデル事業なのか。）なのでしょうか。
- * 開設時期未定とありますが、拠点としては新規、機能としては強化とありますので、開設前でも、基本計画の概要1にある連携等は進むと理解してよろしいでしょうか。
- * ①基本コンセプトについて
 - ・「もしも」に備えた～
 - 備える～とした方がこれから一緒に創り上げていく意味あいとなって、よりよいのでは？
 - ・医療・介護・健康の拠点
 - 内容的には、生活を支えることが不可欠だと思いました。
 - 整備計画のみではなく開設後も考えると、基本コンセプトの中に、「生活」という一言があった方がいいのでは？
 - 例：生活と健康、医療・介護の拠点
- * とても素晴らしいセンターになりそうで、とても楽しみです。地域包括ケアシステムを論じる場所では視点がずれますが、老若男女全ての方が利用できる場所にしてもらいたいです。「成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針」が、政府より閣議決定されました。『産まれる前から高齢になるまで』、全ての年代に通じる考え方です。足立区には、マルチな視点で方針を立ててもらいたいです。該当する部署が別にあれば、そちらに回してもらっても構いません。
- * 健康づくりセンター（仮）においては、ひとりでも多くの方が利用しやすく、また連携の意味では、相談者が悩みを少しでも解消して行けるよう「ワンストップ」を目指したいと思います。
- * 連携センターの役割が非常に重要だと思います。とても楽しみです。
- * 計画通り女子医大との連携が取れば素晴らしいと思います。
- * 財政状況の不透明が原因で開設時期は未定とありますが、区民にとって必要な施設なので、早期の開設を。

* このセンターの整備により、医療・介護の連携が進むことを切に願っております。また、研修等の仕組み作りも期待しています。

* 地震、水害対策も考慮した施設計画を進めてほしい。

以上